

OpenOffice.org 1.1 Office Suite

インストールの手引き

Public Documentation License Notice

The contents of this Documentation are subject to the Public Documentation License Version 1.0 (the "License"); you may only use this Documentation if you comply with the terms of this License. A copy of the License is available at *<http://www.openoffice.org/licenses/PDL.html>*.

The Initial Writer of the Original Documentation is Sun Microsystems, Inc. Copyright (C) 2003. All Rights Reserved. (Initial Writer contact(s): *dedr@openoffice.org*).

このマニュアルの内容

- 1 このガイドについて 6**
 - このマニュアルで使用するマーク 6

- 2 インストールに関する一般的注意事項 7**
 - インストール方法の種類 7
 - システム要件 8
 - 一般システム要件 8
 - SPARC(tm) 版 Solaris(tm) オペレーティング環境のシステム要件 8
 - Linux 環境のシステム要件 9
 - Windows 環境のシステム要件 9
 - ダウンロードして入手するセットアップパッケージの内容 10
 - インストール CD の内容 10
 - CD からインストールを開始する前に 11
 - ダウンロードしたセットアップパッケージからインストールを開始する前に 12
 - 既存のインストールファイルの更新 12
 - マルチユーザーインストールの更新 12

- 3 スタンドアロンインストール 13**
 - インストールをはじめる前に 13
 - インストール開始 14

UNIX プラットフォームで CD からインストールする	14
UNIX プラットフォームでダウンロードしたセットアップパッケージからインストールする	15
Windows プラットフォームで CD からインストールする	15
Windows プラットフォームでダウンロードしたセットアップパッケージからインストールする	16
インストールの流れ	17
ようこそ	17
重要な注意事項	18
ライセンス許諾書	18
移行	19
ユーザーデータ	20
インストールの種類	21
コンポーネントの選択	22
インストールディレクトリ	23
インストールオプションの確認	23
アクセスするファイルの種類	24
Java™ Runtime 環境	25
コピープロセスの開始	26
インストールの最後に	26
Adabas D のインストール	26
OpenOffice.org を起動させる	27
4 マルチユーザーインストールおよびネットワークインストール	29
サーバーインストール	30
インストールをはじめる前に	30
インストール開始	30
インストールの流れ	32

ワークステーションインストール	40
インストールをはじめる前に	40
インストール開始	40
インストールの流れ	42
5 付録	53
Adabas D のインストール	53
Windows での Java(tm) Runtime 環境のインストール	54
UNIX® ベースのプラットフォームでのプリンタ、ファックス、およびフォントの セットアップ	54
プリンタのセットアップ	55
ファックス機能の使用	58
PostScript から PDF へのコンバータの使用	59
フォントのインストール	60
Solaris(tm) オペレーティング環境でのパッチのインストール	63
既存の OpenOffice.org インストールファイルの変更	64
変更	64
修復	65
削除	65
インストールパラメータ	65
パラメータを指定して OpenOffice.org ソフトウェアを起動	66
コマンド行から OpenOffice.org ソフトウェアを起動	66
有効なコマンド行パラメータ	67
OpenOffice.org の登録	69
OpenOffice.org ソフトウェアの拡張	70
シングルユーザー用の拡張機能のインストール、更新、および削除	71
マルチユーザー用の拡張機能のインストール、更新、および削除	72

このガイドについて

このマニュアルで使用するマーク

このマニュアルでは、いくつかのマークを使用して読者に注意を呼びかけ、役に立つ追加情報を提供しています。



「注意」マークが付いた情報は、データおよびシステムのセキュリティに関する情報です。



「メモ」マークが付いた情報は、有益な追加情報です。たとえば、同じ操作を行う別の方法などが説明されています。



「ヒント」マークが付いた情報は、作業をより簡単にするための情報です。



「Solaris」マークが付いた情報は、Solaris™ オペレーティング環境にのみ適用される情報です。



「Linux」マークが付いた情報は、Linux プラットフォームにのみ適用される情報です。



「Unix」マークが付いた情報は、UNIX® プラットフォーム (Solaris オペレーティング環境および Linux) をベースとするすべてのプラットフォームに適用される情報です。



「Win」マークが付いた情報は、Microsoft Windows オペレーティングシステムにのみ適用される情報です。

インストールに関する一般的注意事項

この章では、インストールに関する一般的な情報と、OpenOffice.org を実行するために必要なシステムの構成について説明します。すでにインストールされている OpenOffice.org 7 を変更する場合は、付録の「既存の OpenOffice.org インストールファイルの変更」(64 ページ) を参照してください。

インストール方法の種類

インストール方法の種類	用途
スタンドアロンインストール (13 ページ参照)	OpenOffice.org ソフトウェアを 1 人のユーザーが使用する 1 台のコンピュータにインストールします。
マルチユーザーインストールまたはネットワークインストール (29 ページ参照)	限定的なアクセス権を持つ複数のユーザーによって使用される 1 台のコンピュータ、あるいは共同使用されるネットワークコンピュータに OpenOffice.org ソフトウェアをインストールします。 ネットワークインストールは、次の 2 段階で行ないます。 <ol style="list-style-type: none">1. サーバーインストール。 共通コンポーネントを 1 台のコンピュータにインストールします。通常は、システム管理者によって行われる作業です。2. ワークステーションインストール。 ユーザー設定などの各固有のファイルを 1 台のワークステーションにインストールします。



限定的なアクセス権しか持たないユーザー、つまり管理者の権限を持たないユーザーとして **OpenOffice.org** を **Windows** にインストールすると、ソフトウェアが正しくインストールされません。

このような場合は、まず管理者として **サーバーインストール** を実行し、次にユーザーとして **ワークステーションインストール** を実行します。詳細については、29 ページの説明を参照してください。

システム要件

一般システム要件

- CD-ROM ドライブ (CD からインストールする場合)
- ハードディスク空き容量 300 MB (標準インストールの場合)
- 画面解像度 800x600、256 色以上

SPARC(tm) 版 Solaris(tm) オペレーティング環境のシステム要件

- オペレーティング環境 Solaris 8 以降 (Solaris 9 を推奨)
- Solaris 8 オペレーティング環境の場合は、パッチ 108434-10、108773-17、109147-21、および 108435-10 (64 ビットのみ) が必要
- X11 GUI 環境 (画面解像度 800x600、256 色以上) 例) OpenWindows™ ソフトウェア、CDE、GNOME など。アクセシビリティをサポートする場合は GNOME 2.0 以上が必要
- メモリ 128 MB 以上



Solaris オペレーティング環境対応のパッチについては、CD でディレクトリ / `solsparc/patches` を参照するか、インターネットで <http://sunsolve.sun.com> を参照してください。

Linux 環境のシステム要件

- Pentium プロセッサ、あるいは互換性のあるプロセッサを備えたコンピュータ本体
- Linux Kernel 2.2.13 以上
- インストールされている glibc2 バージョンが 2.2.0 以上
- X11 GUI 環境 (画面解像度 800x600、256 色以上) 例) GNOME など。ただし、アクセシビリティをサポートする場合は GNOME 2.0 以上が必要
- メモリ 128 MB 以上



Linux では、OpenOffice.org を (V) FAT パーティションにインストールすることができません。これは、FAT ファイルシステムがシンボリックリンクの作成をサポートしないためです。

Windows 環境のシステム要件

- Microsoft Windows 98、ME、NT (Service Pack 6 以降)、2000、または XP。Windows 98 でアジア諸国語文字の入力をサポートするには、ネイティブな Windows 98 システムが必要
- Pentium プロセッサ、あるいは互換性のあるプロセッサを備えたコンピュータ本体
- メモリ 64 MB
- インストール処理には、管理者権限が必要となります。

ダウンロードして入手するセットアップパッケージの内容

ダウンロードして入手するセットアップパッケージは、OpenOffice.org セットアップアプリケーション、Adabas データベースセットアップアプリケーション、および PDF 形式のユーザズガイドとインストールの手引き（本書）で構成されています。各種プラットフォーム対応のセットアップパッケージの内容は、以下の表のとおりです。

プラットフォーム	インストールファイル
Windows	OpenOffice.org のインストール: so-7-ga-bin-windows-{lang}.exe Adabas のインストール: soa-7-ga-bin-windows-{lang}.exe
Solaris オペレーティング環境 (SPARC)	OpenOffice.org のインストール: so-7-ga-bin-solsparc-{lang}.bin Adabas のインストール: soa-7-ga-bin-solsparc-{lang}.bin
Linux	OpenOffice.org のインストール: so-7-ga-bin-linux-{lang}.bin Adabas のインストール: soa-7-ga-bin-linux-{lang}.bin



{lang} は、ISO 639 で指定された 2 文字の言語コード（たとえば、英語は「en」）です。必要に応じて、ISO 3166 で指定された 2 文字の国コード（たとえば、USA は「US」）が ISO 639 コードに追加されます。

インストール CD の内容

シングルプラットフォーム対応のインストール CD の場合は、ディレクトリ office7 にインストールファイルがあります。マルチプラットフォーム対応の CD の場合は、次のディレクトリにインストールファイルがあります。

- Windows プラットフォーム: windows\office7
- Linux プラットフォーム: linux/office7
- Solaris オペレーティング環境 (SPARC) プラットフォーム: solsparc/office7

CD からインストールを開始する前に

このマニュアルで説明されていない重要なインストール情報については、OpenOffice.org をインストールする前に、ディレクトリ office7 にある readme.txt ファイル (Windows の場合)、README ファイル (Solaris オペレーティング環境および Linux の場合)、または readme.html ファイルを確認してください。

Solaris

Solaris オペレーティング環境 (Sparc) の場合、OpenOffice.org インストールファイルは /cdrom/solsparc/office7 にあります。Solaris オペレーティング環境下で自動ボリューム管理がオフになっている場合は、volcheck.cdrom を使って CD-ROM を使用できるようにしてください。

Solaris オペレーティング環境 (Sparc) 下で CD を /cdrom にマウントした場合、インストールファイルは次のディレクトリに格納されます。

```
/cdrom/solsparc/office7
```

Linux

インストール CD からセットアップスクリプトを実行するには、実行権限のある CD ドライブに CD をマウントする必要があります。セットアップスクリプトを実行できない場合は、インストールファイルをハードディスク上の一時ディレクトリにコピーし、一時ディレクトリからセットアップスクリプトを実行します。

Win

インストールファイルは、次のディレクトリにあります。

- X:\office7 または
 - X:\windows\office7 (マルチプラットフォーム CD の場合)
- (この場合の X は、CD-ROM ドライブのアルファベットを表します)

ダウンロードしたセットアップパッケージからインストールを開始する前に

ダウンロードしたインストールファイルはすべて同じフォルダに格納してください。



セットアップファイルに実行権限が設定されていることを確認してください。セットアップファイルに実行権限が設定されていない場合は、`chmod` を使用して権限を変更します。

既存のインストールファイルの更新

既存の StarOffice インストールファイル (5.2 以上) を OpenOffice.org 1.1 に更新すると、既存の設定はそのまま使用できます。セットアップアプリケーションにより、システムで OpenOffice.org の旧バージョンが使用されていることが認識されると、インストールファイルを更新するか、または別のディレクトリへ最新バージョンをインストールするかを確認するダイアログが表示されます。ただし、旧バージョンで異なる言語を採用している場合は更新できません。



OpenOffice.org ソフトウェアのベータバージョンへの更新はおすすめしません。

マルチユーザーインストールの更新

セットアップアプリケーションにより、マルチユーザーインストールのサーバーインストールのみが更新されます (30 ページも参照)。次回ユーザーが OpenOffice.org を開くと、ローカルユーザーデータ更新の確認をするダイアログが表示されます。

スタンドアロンインストール

スタンドアロンインストールでは、1人のユーザーが使用する1台のコンピュータに OpenOffice.org 1.1 ソフトウェアがインストールされます。

スタンドアロンインストールを実行する場合は、一般ユーザーとしてシステムにログインしてから、ホームディレクトリまたはすべての権限を持つローカルディレクトリに OpenOffice.org をインストールします。



実行中のインストールは、インストールダイアログの **キャンセル** ボタンを押すことにより随時中止できます。このときにインストールディレクトリを削除することもできます。インストールディレクトリを削除すると、**そのディレクトリに含まれるファイルおよびサブフォルダもすべて削除**されます。

インストールをはじめる前に

選択するオプションによっても異なりますが、スタンドアロンインストールを実行するには、190~250 MB のハードディスク空き容量が必要です。インストール中はこの容量のほかに、一時ファイルとして Windows システムの場合は 40 MB、UNIX® ベースのプラットフォームの場合は 80 MB の空き容量が必要となります。

システムに OpenOffice.org の旧バージョンがインストールされている場合は、次のファイルの中からいずれか 1 つを開きます。

- .sversionrc (UNIX ベースのシステムの場合)
- sversion.ini (Windows ベースのシステムの場合)

マルチユーザー用に設定されている Win9x、および Windows NT/2000 の場合、sversion.ini ファイルは、「C:\Program Files and Settings\{user name}\Application Data」にあります。

これらのファイルには、既にインストールされている OpenOffice.org ソフトウェアのパスとバージョン番号が格納されています。既存のバージョン番号が、インストールしようとしているバージョンと **同じ** 場合は、新しいインストールを実行する前に、既存の OpenOffice.org のインストールを削除する必要があります。既存のバージョン番号が、インストールしようとしているバージョンよりも小さく、かつ 5.2 以降の場合は、インストールファイルを更新するかどうかの選択が可能です（「既存のインストールファイルの更新」、12 ページ参照）。

インストール開始

UNIX プラットフォームで CD からインストールする

1. ユーザー名を指定してログインします（スタンドアロンインストールの場合、システム管理者の権限は不要です）。
2. X Window グラフィカルインターフェースに切り替えます。
3. CD 上のインストールディレクトリに移動します。マルチプラットフォーム対応のインストール CD の場合、インストールファイルは次の場所にあります。
 - Solaris™ オペレーティング環境（SPARC® Platform Edition） - Solaris OE（SPARC）の場合、solsparc/office7
 - Solaris™ オペレーティング環境（x86 Platform Edition） - Solaris OE（x86）の場合、solia/office7
 - Linux 用 linux/office7
4. 次のコマンドでセットアップアプリケーションを起動します。

```
./setup
```

UNIX プラットフォームでダウンロードしたセットアップパッケージからインストールする

1. ユーザー名を指定してログインします（スタンドアロンインストールの場合、システム管理者の権限は不要です）。
2. X Window グラフィカルインターフェースを起動します。
3. ダウンロードしたインストールファイルが格納されているディレクトリに移動します。
4. 次のコマンドを指定してセットアップアプリケーションを起動します。

```
./so-7-ga-bin-{platform}-{lang}.bin
```

「ダウンロードして入手するセットアップパッケージの内容」、10 ページも参照してください。

Windows プラットフォームで CD からインストールする

1. ログインの必要があれば、一般ユーザーでログインします（スタンドアロンインストールの場合、システム管理者の権限は不要です）。
2. CD 上のインストールディレクトリに切り替えます。
マルチプラットフォーム対応の CD の場合、セットアップファイルは windows/office7 にあります。
3. 次の中からいずれか 1 つを実行します。
 - インストールプログラム **setup.exe** をダブルクリックします。
 - Windows の **スタート** メニューを開き、**ファイル名を指定して実行** を選択してから、**名前** ボックスに X:\windows\office7\setup.exe と入力します。
X は、使用する CD-ROM ドライブのアルファベットを表します。
4. OK をクリックしてインストールを開始します。

Windows プラットフォームでダウンロードしたセットアップパッケージからインストールする

1. ログインの必要があれば、一般ユーザーでログインします（スタンドアロンインストールの場合、システム管理者の権限は不要です）。
2. ダウンロードしたインストールファイルが格納されているディレクトリに移動します。
3. 次の中からいずれか 1 つを実行します。
 - so-7-ga-bin-windows-`{lang}`.exe をダブルクリックします。
 - Windows の **スタート** メニューを開き、**ファイル名を指定して実行** を選択してから、**名前** ボックスに `X:\instdir\so-7-ga-bin-windows-{lang}.exe` と入力します。
 - `X:\instdir` は、ダウンロードしたセットアップパッケージのファイルが格納されているディレクトリです。
4. **OK** をクリックしてインストールを開始します。

「ダウンロードして入手するセットアップパッケージの内容」、10 ページも参照してください。

インストールの流れ

インストールの実行中に **ヘルプ** ボタンをクリックすると、現在のダイアログに関する情報が表示されます。**戻る** ボタンをクリックすると、セットアッププログラムに戻ります。ヘルプウィンドウの右上端にある「X」ボタンを押してヘルプウィンドウを閉じないでください。セットアッププログラムが終了してしまいます。

ようこそ

セットアップアプリケーションを起動すると、最初にごあいさつの画面が表示されます。



- **次へ** ボタンをクリックします。



セットアップアプリケーションで OpenOffice.org 5.2 以降の旧バージョンのインストールが認識されると、インストールファイルを更新するか、または新しいディレクトリへインストールするかを確認するダイアログが表示されます。

- インストールオプションを選択して、**次へ** をクリックします。

重要な注意事項

ウィンドウに readme ファイルが表示されます。この readme ファイルは、使用するコンピュータのインストールディレクトリにあるので、後で開くこともできます。

- 注意事項を読み、**次へ** をクリックします。

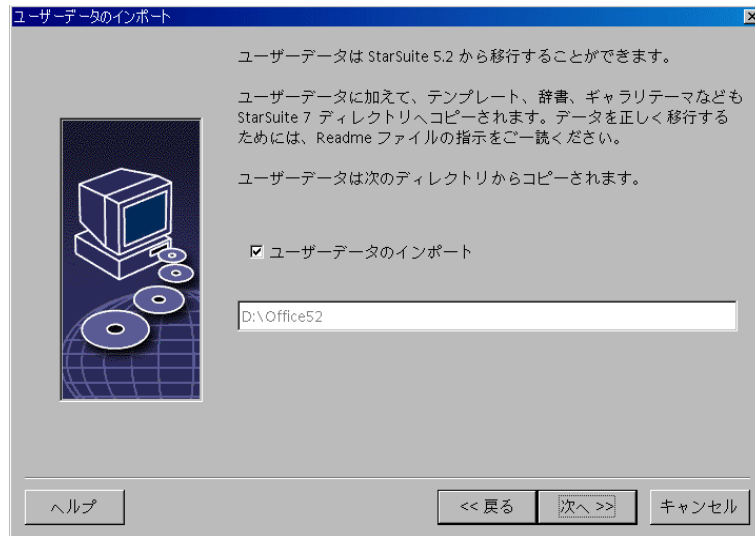
ライセンス許諾書

次に、ライセンス許諾書を記載したダイアログが表示されます。この許諾書に同意しないと OpenOffice.org ソフトウェアはインストールされません。

- ライセンス許諾書を最後まで読み、同意する場合は、この許諾書を最後まで読んだことを確認し、**協定条件に同意します**。ボックスを選択してから **OK** をクリックします。
- 同意しない場合は、**同意しない** をクリックしてセットアッププログラムを終了します。

移行

StarOffice 5.2 がコンピュータにインストールされている場合は、**インポートダイアログ** が表示され、重要なユーザーデータを新しいインストールファイルに移行できます。



- ユーザーデータを転送する場合は、**ユーザーデータのインポート** チェックボックスをオンにします。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

ユーザーデータ

ユーザーデータをインポートしない場合は、**ユーザーデータの入力** ダイアログが表示されます。

ここで入力したデータは、OpenOffice.org でテンプレートおよびドキュメントを固有のものにするために使用されます。

このダイアログは、あとから OpenOffice.org のどのアプリケーションからでも、メニュー **ツール** → **オプション** → OpenOffice.org → **ユーザーデータ** で呼び出せます。

- 個人データを入力します。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

インストールの種類

このダイアログを使用して、実行するインストールの種類を選択します。
OpenOffice.org の旧バージョンを更新する場合は、このダイアログは表示されません。

ここに示される必要なメモリ空き容量はおおよその容量で、実際は記憶媒体の属性によって異なります。

インストールには、次の 3 種類があります。

- **標準インストール**。このインストールは、一般ユーザー向きです。
OpenOffice.org アプリケーションすべてと、選択したフィルタがインストールされます。
- **ユーザー操作のインストール**。このインストールは、上級ユーザー向きです。
この方法を使用すると、インストールするコンポーネントを個別に選択できます。
- **最小インストール**。このインストールは、メモリ容量に制限のあるユーザー向きです。このオプションを選択すると、OpenOffice.org の実行に必要な最低限のコンポーネントのみがインストールされます。





- 実行するインストールの種類を選択します。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。


コンポーネントの選択

ユーザー操作のインストール オプションを選択する場合は、インストールするモジュールおよびコンポーネントを選択します。

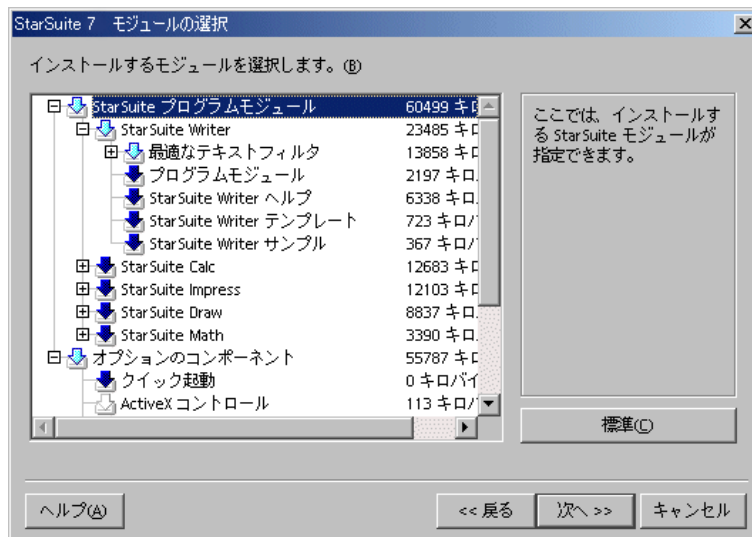
モジュールまたはコンポーネントカテゴリの名前の横にあるプラス記号 (+) をクリックすると、リストが展開されます。インストールするカテゴリまたはコンポーネントをクリックします。カテゴリ内に選択しないコンポーネントが含まれる場合、そのカテゴリの前に表示されるボックスが半透明になります。

 **濃い青色** で表示されているカテゴリは、そのカテゴリのすべてのコンポーネントがインストールされます。

 **薄い青色** で表示されているカテゴリは、そのカテゴリのコンポーネントが一部だけインストールされます。

 **白** で表示されているカテゴリは、インストールされません。

標準インストールのオプションを復元するには、**標準** ボタンをクリックします。



- インストールに含めるモジュールおよびコンポーネントを選択します。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

インストールディレクトリ

次に、インストールディレクトリを選択するダイアログが表示されます。既存のインストールファイルを更新する場合は、このダイアログは表示されません。

このダイアログには、システムで使用可能なドライブの一覧が表示されます。ここに示された必要容量はおおよその容量であり、実際は記憶媒体の属性によって異なります。



- テキストボックスに **インストールディレクトリ** のパスを入力するか、**検索** をクリックしてディレクトリを選択します。

ディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリの作成を確認するダイアログが表示されます。

- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

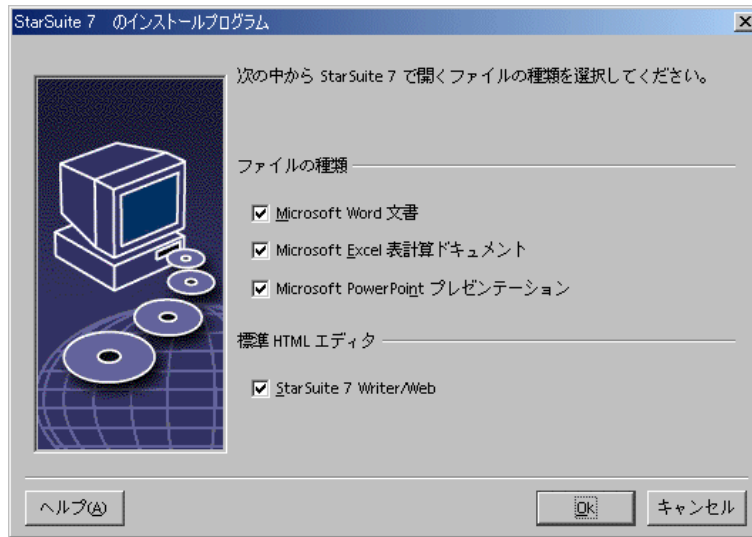
インストールオプションの確認

インストールオプションの設定が終了すると、ダイアログが表示され、設定を確認することができます。

- インストールを続行する場合は **インストールする** を、設定を変更する場合は **戻る** をクリックします。

アクセスするファイルの種類

このダイアログを使用して、OpenOffice.org と Microsoft のファイルの種類、および HTML 文書を関連付けます。この情報は、オペレーティングシステムに登録されます。



- OpenOffice.org で開く **ファイルの種類** を選択します。
- OpenOffice.org Writer を HTML ファイルの標準エディタとして使用するには、**標準 HTML エディタ** のチェックボックスをオンにします。
- OK ボタンをクリックします。

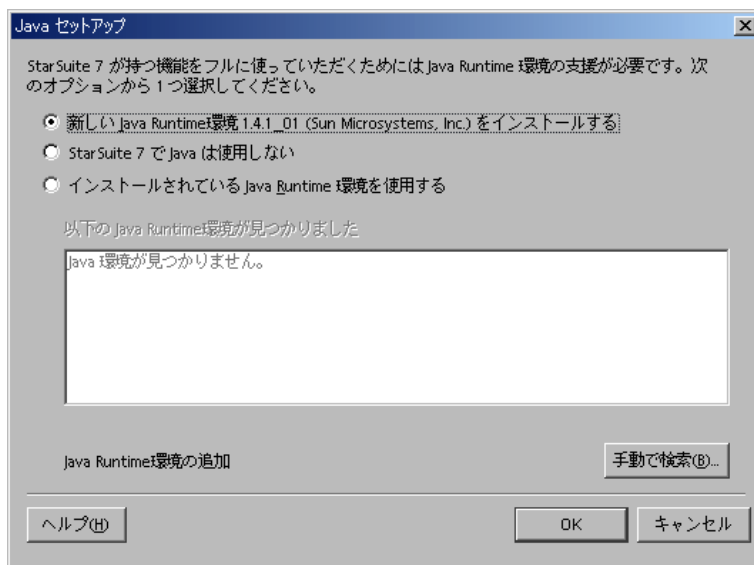


セットアップアプリケーションを実行してオプション **変更** を選択すると、すでにインストールされているファイルの種類の割り当てに設定することができます（「変更」、64 ページ参照）。

Java™ Runtime 環境

次に、システムに登録されている Java™ Runtime 環境 (JRE) のバージョンの一覧、または JRE をインストールするオプションを示すダイアログが表示されます。

使用する JRE を選択します。1.4 以降のバージョンのご使用をおすすめします。JRE がすでにインストールされている場合は、提供されるバージョンをインストールする必要はありません。



- 現在システムに JRE がインストールされていない場合は、インストールするをクリックします。
JRE のインストール指示に従います。インストールが終了すると、Java セットアップ ダイアログに戻ります。
JRE のインストールに関する詳細については、付録を参照してください。
- システムに JRE がインストールされている場合は、使用するバージョンを選択して OK をクリックします。

コピープロセスの開始

インストールの実行中は、インストールの進行状況とインストール終了までの推定残り時間が表示されます。

インストールの最後に

インストールプロセスが終了すると、完了を知らせる終了ダイアログが表示されます。

- **完了** をクリックしてインストールを終了させます。



使用するウィンドウマネージャーによっては、ログアウトしてウィンドウマネージャーの再起動が必要となる場合もあります。

Adabas D のインストール

OpenOffice.org ソフトウェアのインストールを終了したら、Adabas データベース のインストールを開始します。

Adabas D データベースのインストールに関する詳細については、付録を参照してください。

OpenOffice.org を起動させる



ディレクトリ `{installpath}/program`、またはホームディレクトリにあるローカルの `OpenOffice.org` ディレクトリに移動し、次のように入力します。

```
./soffice
```

ディレクトリ `{installpath}/program` をプログラムパスに追加し、任意のディレクトリで「`soffice`」と入力して `OpenOffice.org` を起動することもできます。

`OpenOffice.org` の標準プリンタをセットアップするには、`spadmin` プリンタ管理ユーティリティを呼び出します。このユーティリティの詳細については、付録を参照してください。

Solaris オペレーティング環境 上でインストールしたあとは、ログアウトしてからもう一度ログインしなおして、`CDE` 統合を更新してください。



`OpenOffice.org` アプリケーションを起動するためのアイコンが `Windows` の **スタート** メニューの `programs/OpenOffice.org` フォルダに追加されます。

`OpenOffice.org` クイック起動へのリンクが、インストール処理の実行中に `Windows` のスタートメニューにある自動起動フォルダに追加されます。`Windows` を起動すると、クイック起動がシステムトレイに追加されます。

システムトレイにあるクイック起動アイコンを右クリックし、起動する `OpenOffice.org` アプリケーションを選択します。

クイック起動に関する詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

コマンド行パラメータを使用した `OpenOffice.org` の起動に関する詳細については、付録を参照してください。

マルチユーザーインストールおよびネットワークインストール

ネットワークで複数のユーザーが使用する OpenOffice.org をインストールするには、2つの段階があります。

1. **サーバーインストール**。このインストールは、システム管理者が `setup -net` コマンドを使用して実行します。OpenOffice.org のファイルは、すべてのユーザーが読み取り権限および実行権限を持つディレクトリにコピーされます (30 ページ参照)。
2. **ユーザーインストール**。このインストールは、各ユーザーがそれぞれのホームディレクトリに OpenOffice.org のコピーをインストールするか、ユーザー固有のファイルのみをインストールして実行します。後者のインストールは **ワークステーションインストール** とも呼ばれ、OpenOffice.org アプリケーションを実行するためには **サーバーインストール** へのアクセスを必要とします (40 ページ参照)。



限定的なアクセス権しか持たないユーザー、つまり管理者の権限を持たないユーザーとして OpenOffice.org を Windows にインストールすると、ソフトウェアが正しくインストールされません。

このような場合は、まず管理者として **サーバーインストール** を実行し、次にユーザーとして **ワークステーションインストール** を実行します。詳細については、29 ページの説明を参照してください。

サーバーインストール

サーバーインストールは、OpenOffice.org™ ソフトウェアのスタンドアロンバージョンでは **ありません**。OpenOffice.org を使用する前に、サーバーインストールからワークステーションインストールを実行する **必要** があります（「ワークステーションインストール」、40 ページ参照）。

インストールをはじめる前に

OpenOffice.org ソフトウェアのサーバーインストールを実行するには、約 250 MB の空き容量が必要です。インストールの実行中に作成される一時セットアップファイルには、さらに 20 MB の容量が必要です。これらの一時ファイルは、インストールが終了すると自動的に削除されます。Unix® 環境下では、インストール時に約 80 MB のスワップボリュームが作成され、インストール終了後に削除されます。

インストール開始

UNIX プラットフォームで CD からインストールする

1. システム管理者 としてログインします。
2. X Window グラフィカルインターフェースに切り替えます。
3. CD 上のインストールディレクトリに移動します。マルチプラットフォーム対応のインストール CD の場合、インストールファイルは次の場所にあります。
 - Solaris™ オペレーティング環境 (SPARC® Platform Edition) - Solaris OE (SPARC) の場合、solsparc/office7
 - x86 プラットフォーム版 Solaris™ オペレーティング環境の場合 solia/office7
 - Linux の場合 linux/office7
4. 次のコマンドで、インストールスクリプトを起動します。

```
./setup -net
```

UNIX プラットフォームでダウンロードしたセットアップパッケージからインストール

1. システム管理者 としてログインします。
2. グラフィカル XWindow インターフェースを起動します。
3. ダウンロードしたインストールファイルが格納されているディレクトリに移動します。
4. 次のコマンドで、セットアップアプリケーションを起動します。

```
./so-7-ga-bin-{platform}-{lang}.bin -net
```

「ダウンロードして入手するセットアップパッケージの内容」、10 ページも参照してください。

Windows プラットフォームで CD からインストールする

1. システム管理者 としてログインします。
2. Windows の スタート メニューを開き、ファイル名を指定して実行 を選択してから、名前ボックスに「X:\windows\office7\setup.exe -net」と入力します。
X は、使用する CD-ROM ドライブのアルファベットを表します。
3. OK をクリックしてインストールを開始します。

Windows プラットフォームでダウンロードしたセットアップパッケージからインストールする

1. システム管理者 としてログインします。
2. Windows の スタート メニューを開き、ファイル名を指定して実行 を選択してから、名前 ボックスに「X:\instdir\so-7-ga-bin-windows-**{lang}**.exe -net」と入力します。
X:\instdir は、ダウンロードしたセットアップパッケージが格納されているディレクトリです。
3. OK をクリックしてインストールを開始します。

「ダウンロードして入手するセットアップパッケージの内容」、10 ページも参照してください。



既存の OpenOffice.org インストールファイルを更新する場合は、旧バージョンがインストールされているセットアッププログラムの場所を指定する必要があります。

セットアップ中に更新対象の旧バージョンが自動的に認識されない場合は、`-update` パラメータを次のように指定して、セットアップアプリケーションを実行してください。

```
./<setup> -net -update:<path_to_previous_serverinst>
```

この場合の `<setup>` は起動するセットアップルーチン名（上記参照）に、`<path_to_previous_serverinst>` は前回のサーバーインストールでインストールされた OpenOffice.org のインストールファイルの完全パスになります。

インストールの流れ

ようこそ

セットアップアプリケーションを起動すると、最初にごあいさつの画面が表示されます。



- 次へ ボタンをクリックします。



セットアップアプリケーションで OpenOffice.org 5.2 以降の旧バージョンのインストールが認識されると、インストールファイルを更新するか、または新しいディレクトリへインストールするかを確認するダイアログが表示されます。

- インストールオプションを選択して、**次へ** をクリックします。

重要な注意事項

ウィンドウに readme ファイルが表示されます。この readme ファイルは、使用するコンピュータのインストールディレクトリにあるので、後で開くこともできます。

- 注意事項を読み、**次へ** をクリックします。

ライセンス許諾書

次に、ライセンス許諾書を記載したダイアログが表示されます。この許諾書に同意しないと OpenOffice.org ソフトウェアはインストールされません。

- ライセンス許諾書を最後まで読み、同意する場合は、この許諾書を最後まで読んだことを確認し、**協定条件に同意します**。ボックスを選択してから **OK** をクリックします。
- 同意しない場合は、**同意しない** をクリックしてセットアッププログラムを終了します。

インストールの種類

このダイアログを使用して、実行するインストールの種類を選択します。
OpenOffice.org の旧バージョンを更新する場合は、このダイアログは表示されません。

ここに示される必要なメモリ空き容量はおおよその容量で、実際は記憶媒体の属性によって異なります。

インストールには、次の 3 種類があります。

- **標準インストール**。このインストールは、一般ユーザー向けです。
OpenOffice.org アプリケーションすべてと、選択したフィルタがインストールされます。
- **ユーザー操作のインストール**。このインストールは、上級ユーザー向けです。
この方法を使用すると、インストールするコンポーネントを個別に選択できます。
- **最小インストール**。このインストールは、メモリ容量に制限のあるユーザー向けです。
このオプションを選択すると、OpenOffice.org の実行に必要な最低限のコンポーネントのみがインストールされます。



- **ユーザー操作のインストール** を選択します。


OpenOffice.org コンポーネントはすべてサーバーインストールの実行中にインストールされます。そのため、各ユーザーは、ワークステーションインストール時にこれらのオプションにアクセスできます。


- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。


コンポーネントの選択

ユーザー操作のインストール オプションを選択する場合は、インストールするモジュールおよびコンポーネントを選択します。

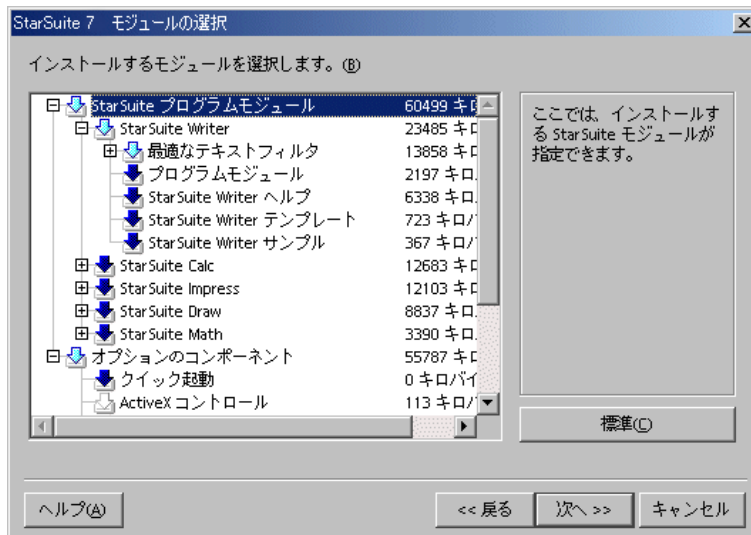
モジュールまたはコンポーネントカテゴリの名前の横にあるプラス記号 (+) をクリックすると、リストが展開されます。インストールするカテゴリまたはコンポーネントをクリックします。カテゴリ内に選択しないコンポーネントが含まれる場合、そのカテゴリの前に表示されるボックスが半透明になります。

 **濃い青色** で表示されているカテゴリは、そのカテゴリのすべてのコンポーネントがインストールされます。

 **薄い青色** で表示されているカテゴリは、そのカテゴリのコンポーネントが一部だけインストールされます。

 **白** で表示されているカテゴリは、インストールされません。

標準インストールのオプションを復元するには、**標準** ボタンをクリックします。



- インストールに含めるモジュールおよびコンポーネントを選択します。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

インストールディレクトリ

次に、インストールディレクトリを選択するダイアログが表示されます。既存のインストールファイルを更新する場合は、このダイアログは表示されません。

このダイアログには、システムで使用可能なドライブの一覧が表示されます。ここに示された必要容量はおおよその容量であり、実際は記憶媒体の属性によって異なります。



- テキストボックスに **インストールディレクトリ** のパスを入力するか、**検索** をクリックしてディレクトリを選択します。

ディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリの作成を確認するダイアログが表示されます。

- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

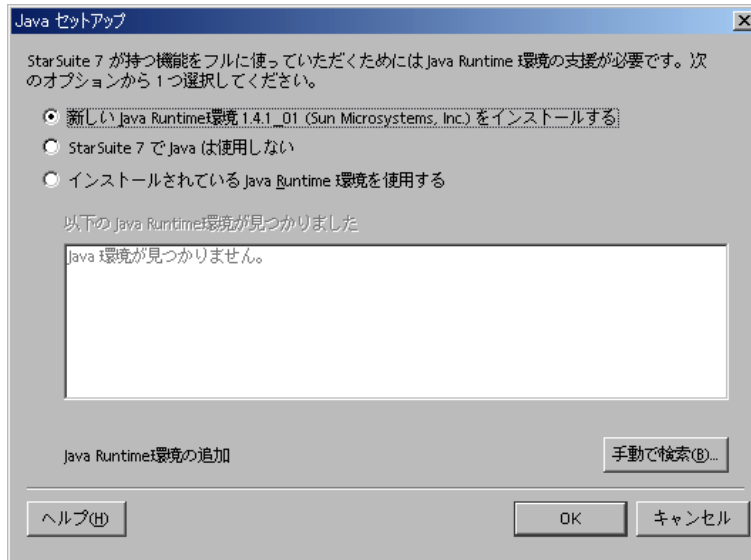


サーバーインストール用に選択するディレクトリは、ワークステーションインストールを実行できるように、すべてのユーザーが読み取り権限と実行権限を持つディレクトリである必要があります。

Java™ Runtime 環境

次に、システムに登録されている Java™ Runtime 環境 (JRE) のバージョンの一覧、または JRE をインストールするオプションを示すダイアログが表示されます。

使用する JRE を選択します。1.4 以降のバージョンのご使用をおすすめします。JRE がすでにインストールされている場合は、提供されるバージョンをインストールする必要はありません。



- 現在システムに JRE がインストールされていない場合は、インストールするをクリックします。
JRE のインストール指示に従います。インストールが終了すると、Java セットアップ ダイアログに戻ります。
JRE のインストールに関する詳細については、付録を参照してください。
- システムに JRE がインストールされている場合は、使用するバージョンを選択して OK をクリックします。



JRE のインストールファイルは、すべてのユーザーが共有するインストールファイルです。この時点で JRE をインストールしない場合は、ユーザーがワークステーションインストールの実行時に JRE をインストールすることができます。

インストールオプションの確認

インストールオプションの設定が終了すると、ダイアログが表示され、設定を確認することができます。

- インストールを続行する場合は **インストールする** を、設定を変更する場合は **戻る** をクリックします。

コピープロセスの開始

インストールの実行中は、インストールの進行状況とインストール終了までの推定残り時間が表示されます。

インストールの最後に

インストールプロセスが終了すると、完了を知らせる終了ダイアログが表示されます。

- **完了** をクリックしてインストールを終了させます。



使用するウィンドウマネージャーによっては、ログアウトしてウィンドウマネージャーの再起動が必要となる場合もあります。

次に、各ユーザーは、**ワークステーションインストール** を実行して、必要なファイルを各自のホームディレクトリあるいはローカルハードディスクにコピーします。ワークステーションインストールについては、次の章で説明します。

サーバーインストールで多くのインストールを実行する場合は、ユーザーが次回 **OpenOffice.org** を起動したときに表示される登録ダイアログを非アクティブにしておくことができます。詳細については、付録の「69」を参照してください。

ワークステーションインストール

ネットワークインストールで OpenOffice.org を実行する前に、ワークステーションインストールを実行する必要があります。ワークステーションインストールを実行するたびに、集中管理されたサーバーインストールの主要 OpenOffice.org コンポーネントへのアクセスが必要となります。



既存のサーバーインストールを更新すると、ワークステーションインストールの次回起動時に、これを更新するかどうかを確認するダイアログが表示されます。

インストールをはじめる前に

ワークステーションインストールには、約 20 MB の空き容量が必要です。

インストール開始

ワークステーションで OpenOffice.org をインストールする前に、サーバーインストールを実行する必要があります。詳細については、「サーバーインストール」、30 ページを参照してください。

システムに OpenOffice.org の旧バージョンがインストールされている場合は、次のファイルの中からいずれか 1 つを開きます。

- .sversionrc (UNIX ベースのシステムの場合)
- sversion.ini (Windows ベースのシステムの場合)

マルチユーザー用に設定されている Win9x、および Windows NT/2000 の場合、sversion.ini ファイルは、「C:\Program Files and Settings\{user name}\Application Data」にあります。

これらのファイルには、既にインストールされている OpenOffice.org ソフトウェアのパスとバージョン番号が格納されています。既存のバージョン番号が、インストールしようとしているバージョンと **同じ** 場合は、新しいインストールを実行する前に、既存の OpenOffice.org のインストールを削除する必要があります。既存のバージョン番号が、インストールしようとしているバージョンよりも小さく、かつ 5.2 以降の場合は、インストールファイルを更新するかどうかの選択が可能です（「既存のインストールファイルの更新」、12 ページ参照）。

UNIX プラットフォームでのインストール

1. ユーザー名 を指定してログインします。
2. XWindow グラフィカルインターフェースを起動します。
3. サーバーインストールの インストールディレクトリにある program サブディレクトリに移動します。OpenOffice.org インストールの元のセットアップファイルは 使用しないでください。
4. 次のコマンドでインストールスクリプトを起動します。

```
./setup
```

Windows プラットフォームでのインストール

1. ユーザー名 を指定してログインします。
2. サーバーインストールの インストールディレクトリにある program サブディレクトリに移動します。OpenOffice.org インストールのオリジナルのセットアップファイルは 使用しないでください。
3. 次の中からいずれか 1 つを実行します。

- Setup.exe プログラムをダブルクリックします。
- Windows の スタート メニューを開き、ファイル名を指定して実行を選択してから、名前 ボックスに {server install dir} \program\setup.exe と入力します。

この場合の {server install dir} は、サーバーインストールのセットアップディレクトリになります。

4. OK をクリックして、ワークステーションインストールを開始します。

インストールの流れ

ようこそ

セットアップアプリケーションを起動すると、最初にごあいさつの画面が表示されます。



- 次へ ボタンをクリックします。



セットアップアプリケーションで OpenOffice.org 5.2 以降の旧バージョンのインストールが認識されると、インストールファイルを更新するか、または新しいディレクトリへインストールするかを確認するダイアログが表示されます。

- インストールオプションを選択して、**次へ** をクリックします。

重要な注意事項

ウィンドウに readme ファイルが表示されます。この readme ファイルは、使用するコンピュータのインストールディレクトリにあるので、後で開くこともできます。

- 注意事項を読み、**次へ** をクリックします。

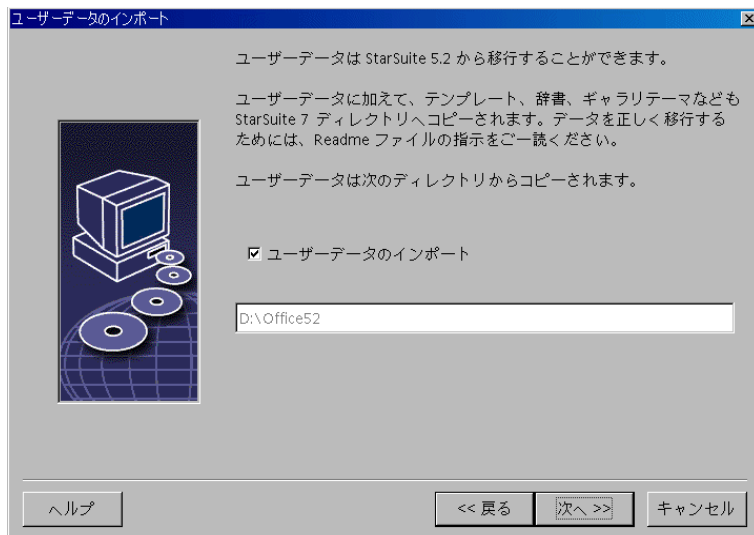
ライセンス許諾書

次に、ライセンス許諾書を記載したダイアログが表示されます。この許諾書に同意しないと OpenOffice.org ソフトウェアはインストールされません。

- ライセンス許諾書を最後まで読み、同意する場合は、この許諾書を最後まで読んだことを確認し、**協定条件に同意します**。 ボックスを選択してから **OK** をクリックします。
- 同意しない場合は、**同意しない** をクリックしてセットアッププログラムを終了します。

移行

StarOffice 5.2 がコンピュータにインストールされている場合は、**インポートダイアログ** が表示され、重要なユーザーデータを新しいインストールファイルに移行できます。



- ユーザーデータを転送する場合は、**ユーザーデータのインポート** チェックボックスをオンにします。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

ユーザーデータ

ユーザーデータをインポートしない場合は、**ユーザーデータの入力** ダイアログが表示されます。

ここで入力したデータは、OpenOffice.org でテンプレートおよびドキュメントを固有のものにするために使用されます。

このダイアログは、あとから OpenOffice.org のどのアプリケーションからでも、メニュー **ツール** → **オプション** → OpenOffice.org → **ユーザーデータ** で呼び出せます。

ユーザーデータの入力

会社(C)

名姓/イニシャル(N)

市区町村番地(S)

郵便番号/都道府県名(O)

国名(O) 日本

肩書き/部署(O)

Tel.(自宅)(H)

Tel.(会社)(W)

Fax

E-mail

ヘルプ(A) << 戻る 次へ >> キャンセル

- 個人データを入力します。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

インストール方法の種類



以下で説明するダイアログウィンドウではなく、標準、ユーザー操作、最小などのインストール方法を示すダイアログウィンドウが表示される場合は、このダイアログを閉じてサーバーインストールの program サブディレクトリにあるセットアップアプリケーションを実行します。

オプション **ワークステーションインストール** を選択すると、ユーザー固有のファイルのみがローカルにインストールされるため、OpenOffice.org を実行するサーバーインストールファイルへのアクセスが必要となります。

オプション **ローカルにインストール** を選択すると、OpenOffice.org の完全なコピーがローカルにインストールされるため、OpenOffice.org を実行するサーバーインストールファイルへのアクセスは必要ありません。

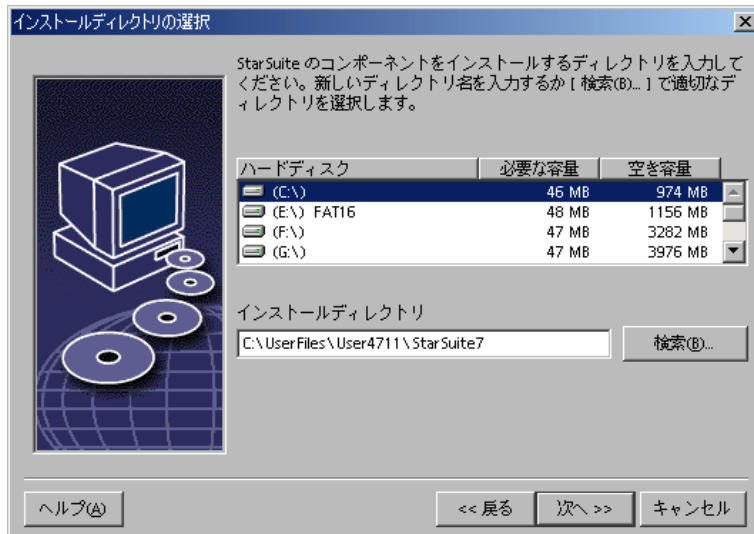


- インストールの方法として **ワークステーションインストール** を選択します。同じマシン上の各ユーザー用に、個別にワークステーションインストールを実行する必要があります。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

インストールディレクトリ

次に、インストールディレクトリを選択するダイアログが表示されます。既存のインストールファイルを更新する場合は、このダイアログは表示されません。

このダイアログには、システムで使用可能なドライブの一覧が表示されます。ここに示された必要容量はおおよその容量であり、実際は記憶媒体の属性によって異なります。



- テキストボックスに **インストールディレクトリ** のパスを入力するか、**検索** をクリックしてディレクトリを選択します。

ディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリの作成を確認するダイアログが表示されます。

- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

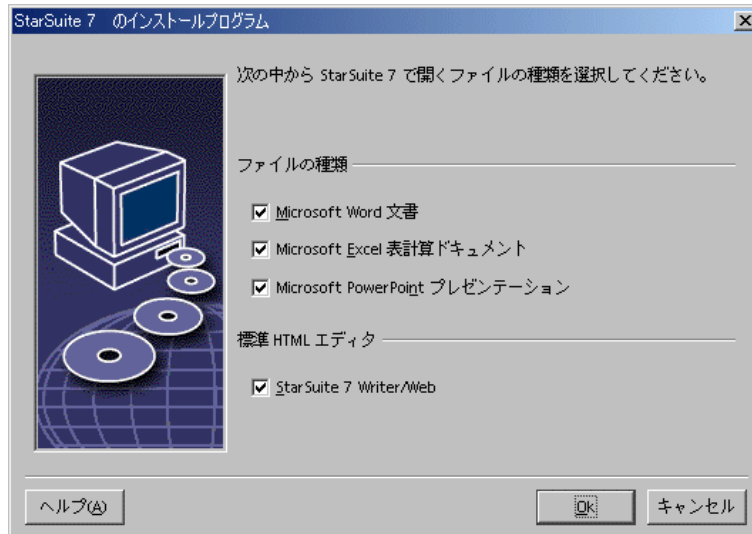
インストールオプションの確認

インストールオプションの設定が終了すると、ダイアログが表示され、設定を確認することができます。

- インストールを続行する場合は **インストールする** を、設定を変更する場合は **戻る** をクリックします。

アクセスするファイルの種類

このダイアログを使用して、OpenOffice.org と Microsoft のファイルの種類、および HTML 文書を関連付けます。この情報は、オペレーティングシステムに登録されます。



- OpenOffice.org で開く **ファイルの種類** を選択します。
- OpenOffice.org Writer を HTML ファイルの標準エディタとして使用するには、**標準 HTML エディタ** のチェックボックスをオンにします。
- OK ボタンをクリックします。



セットアップアプリケーションを実行してオプション **変更** を選択すると、すでにインストールされているファイルの種類の割り当てに設定することができます（「変更」、64 ページ参照）。

Java™ Runtime 環境

Java™ Runtime 環境 (JRE) がサーバーインストールの実行時にインストールされなかった場合、JRE をインストールするかどうかを確認するダイアログが表示されます。JRE をインストールするには、25 ページの指示に従います。

コピープロセスの開始

インストールの実行中は、インストールの進行状況とインストール終了までの推定残り時間が表示されます。

インストールの最後に

インストールプロセスが終了すると、完了を知らせる終了ダイアログが表示されます。

- **完了** をクリックしてインストールを終了させます。



使用するウィンドウマネージャーによっては、ログアウトしてウィンドウマネージャーの再起動が必要となる場合もあります。

OpenOffice.org を起動させる



ディレクトリ {installpath}/program、またはホームディレクトリにあるローカルの OpenOffice.org ディレクトリに移動し、次のように入力します。

```
./soffice
```

ディレクトリ {installpath}/program をプログラムパスに追加し、任意のディレクトリで「soffice」と入力して OpenOffice.org を起動することもできます。

OpenOffice.org の標準プリンタをセットアップするには、spadmin プリンタ管理ユーティリティを呼び出します。このユーティリティの詳細については、付録を参照してください。

Solaris **オペレーティング環境** 上でインストールしたあとは、ログアウトしてからもう一度ログインしなおして、CDE 統合を更新してください。



OpenOffice.org アプリケーションを起動するためのアイコンが Windows の **スタート** メニューの programs/OpenOffice.org フォルダに追加されます。

OpenOffice.org クイック起動へのリンクが、インストール処理の実行中に Windows のスタートメニューにある自動起動フォルダに追加されます。

Windows を起動すると、クイック起動がシステムトレイに追加されます。

システムトレイにあるクイック起動アイコンを右クリックし、起動する OpenOffice.org アプリケーションを選択します。

クイック起動に関する詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

コマンド行パラメータを使用した OpenOffice.org の起動に関する詳細については、付録を参照してください。

付録

付録では、Adabas データベース、Java™ Runtime 環境 (JRE) のインストールに関する指示、Solaris™ オペレーティング環境下および Linux 環境下でのプリンタ管理プログラムの実行に関する情報を提供します。また、OpenOffice.org ソフトウェアの変更、修復、インストールの削除に関する情報も提供します。

Adabas D のインストール

Adabas オプションがオフの状態ではユーザー操作のインストールを実行しない限り、Adabas のセットアップアプリケーションは OpenOffice.org ソフトウェアのインストール後に自動的に起動します (「コンポーネントの選択」、22 ページ参照)。

Adabas のセットアップアプリケーションは、システム変数 DBROOT、DBWORK、および DBCONFIG をチェックすることによって、Adabas D データベースがすでにインストールされているかどうかを認識します。

Adabas D ファイルのインストールパスを確認するときに、OpenOffice.org ソフトウェアが格納されているディレクトリは選択しないでください。

Windows での Java(tm) Runtime 環境のインストール

OpenOffice.org のインストール時に、Java Runtime 環境 (JRE) をインストールするかどうかを確認するダイアログが表示されます。これらのファイルは、Java

ベースのアプレットおよびレポートのオートパイロットなどの OpenOffice.org コンポーネントの実行に必要です。

JRE をインストールするには、プロンプトでインストールすることを指定し、指示に従います。

JRE をあとでインストールするには、OpenOffice.org インストールファイルの program ディレクトリにある jvmsetup を実行します。



Linux 上で Java Runtime 環境を使用する場合は、README ファイルにある最新の注意事項をお読みください。

UNIX® ベースのプラットフォームでの プリンタ、ファックス、およびフォント のセットアップ

UNIX® ベースのプラットフォームでは、OpenOffice.org ソフトウェアで使用するプリンタ、ファックス、およびフォントのセットアップをサポートするプリンタ管理プログラム `spadmin` が提供されています。

次の手順に従って、プリンタ管理プログラム `spadmin` を呼び出します。

- ディレクトリ `{installpath}/program` に移動します。
- 「`./spadmin`」と入力します。

起動すると、プリンタ管理プログラム `spadmin` のウィンドウが表示されます。

サーバーインストールが終了したら、**システム管理者** は、まず、`root` ユーザーとしてシステムにログインし、プリンタ管理プログラム `spadmin` を起動します。システム管理者は、次に、`{installpath}/share/psprint/psprint.conf` と呼ばれるすべてのユーザーが使用する一般的なプリンタ設定ファイルを作成します。こうすることによって、すべてのユーザーが、あらゆる変更をその変更の直後から利用できるようになります。

システム管理者は、ネットワークインストールの際に、すべてのユーザーが使用するフォントの追加もできます。ただし、これらのフォントを使用するには、OpenOffice.org ソフトウェアを再起動する必要があります。

プリンタのセットアップ

UNIX ベースのプラットフォームで OpenOffice.org ソフトウェアが直接サポートするのは、PostScript™ テクノロジを使用するプリンタのみです。その他のプリンタは、OpenOffice.org ソフトウェアのプリンタドライバ の節に記載されている説明に従ってセットアップする必要があります。OpenOffice.org ソフトウェアでは、それぞれのシステムキューに合う標準ドライバを自動的にプリンタに提供します。プリンタは、必要に応じて追加できます。

プリンタの追加

1. **新しいプリンタ** ボタンをクリックします。
2. **プリンタの設定** オプションを選択して、**次へ** をクリックします。
3. 使用するプリンタに合うドライバを選択します。PostScript プリンタを使用しない場合、あるいは使用するモデルが表示されない場合は、**Generic Printer** ドライバを使用するか、以下のステップに従います。**インポート** ボタンを使用して新しいドライバを追加したり、**削除** ボタンを使用して不要なドライバを削除することもできます。ドライバを選択したら、**次へ** をクリックします。
4. 使用するプリンタで印刷に使用するコマンド行を選択します。例) `lp -d my_queue` コマンド行を選択したら、**次へ** をクリックします。
5. プリンタに名前を付け、標準プリンタとして使用するかどうかを指定します。指定したら、**完了** をクリックします。
6. **テストページ** をクリックしてテストページを印刷します。テストページが印刷されない場合、あるいはテストページが正しく印刷されない場合は、すべての設定が **プリンタ設定の変更** に記載されている説明に準拠しているかチェックします。

OpenOffice.org ソフトウェアのプリンタドライバ

PostScript 以外のプリンタをインストールする場合は、PostScript がプリンタで使用される言語に変換されるようにシステムを設定する必要があります。Ghostscript (<http://www.cs.wisc.edu/~ghost/>) など、一般的に使用されている PostScript 変換ソフトウェアの使用をおすすめします。

このような場合は、**Generic Printer** を設定する必要があります。ページ余白が正しく設定されているかも確認してください。

PostScript™ テクノロジを使用するプリンタをお使いの場合は、用紙トレイの選択、両面印刷、組み込まれたすべてのフォントの使用などの特殊な印刷機能を使用可能にするために、PPD ファイル（プリンタ記述ファイル）をインストールする必要があります。汎用プリンタドライバには、ほとんどのプリンタに適用できる重要なデータが格納されているため、このドライバを使用することもできます。これを使用する場合、用紙トレイの選択はできません。また、ページ余白を正確に設定する必要があります。

標準ファイルとしてインストールされている PPD ファイルもあります。使用するプリンタに適した PPD ファイルがない場合は、<http://www.adobe.com/products/printerdrivers/> から各種の PPD ファイルを手に入れます。プリンタの製造元に、PPD ファイルについて問い合わせることも可能です。

新規プリンタ作成時のドライバのインポート

1. ドライバ選択のダイアログで **インポート** をクリックします。
2. **検索** をクリックして、PPD ファイルの解凍先となるディレクトリを選択します。
3. **ドライバの選択** リストボックスで、インストールするプリンタドライバを選択します。
4. **OK** をクリックします。

新規プリンタ作成時のドライバの削除

- プリンタドライバを選択します。
- **削除** をクリックします。

汎用プリンタドライバを削除しないよう注意してください。また、サーバーインストールから削除されたドライバは、以後、同じサーバーインストールを使用するその他のユーザーも使用できなくなることに留意してください。

プリンタに、通常の PostScript フォントだけでなく、その他のフォントも組み込まれている場合は、これら追加フォント用の AFM ファイルもロードする必要があります。これを行うには、AFM ファイルをディレクトリ `{installpath}/`

share/psprint/fontmetric またはディレクトリ {installpath}/user/psprint/fontmetric にコピーします。AFM ファイルは <ftp://ftp.adobe.com/pub/adobe/type/win/all/afmfiles/> などから入手できます。

プリンタ設定の変更

プリンタ管理プログラム spadmin で、インストールされているプリンタ リストボックスからプリンタを選択し、**プロパティ (Properties)** をクリックします。複数のタブページで構成された **プロパティ (Properties)** ダイアログが表示されます。このダイアログでは、選択したプリンタの PPD ファイルの情報に基づいて設定を行います。

- **コマンド** タブページで、コマンドを選択します。不要なコマンドは、**削除** ボタンを使用して削除することができます。
- **用紙** タブページで、このプリンタのデフォルトの設定として使用する用紙サイズおよび用紙トレイを定義します。
- **デバイス** タブページで、使用するプリンタ固有のオプションをアクティブにします。プリンタで使用できるのが白黒印刷のみの場合は **色** で「グレースケール」を選択し、それ以外の場合は「カラー」を選択します。グレースケールでの印刷結果が希望するものにならない場合は、**色** で「カラー」を選択し、プリンタまたは **PostScript** エミュレータで印刷を実行することもできます。さらに、このページでは、色の精度や **PostScript** レベルも設定できます。
- **フォントの置換** タブページで、プリンタで使用可能なプリンタフォントタイプを、コンピュータにインストールされたフォントタイプごとに選択できます。この方法を使用すると、プリンタに送られるデータ量を減らすことができます。フォント置換は、プリンタごとにオン/オフの切り替えが可能です。
- 汎用プリンタドライバを使用する場合は、**詳細設定** タブページでページ余白を設定し、印刷するドキュメントが途中で切れないようにする必要があります。このほかに、コメントフィールドに説明を入力し、それを **印刷** ダイアログで表示することもできます。

これらの設定の中には、OpenOffice.org ソフトウェアの **印刷** ダイアログまたは **プリンタの設定** ダイアログの **プロパティ (Properties)** ボタンを使用することにより、出力のたびに設定できるものもあります。

プリンタの名前変更または削除

- **インストールされているプリンタ** リストボックスからプリンタを選択します。
- 選択したプリンタの名前を変更するには、**名前の変更** をクリックします。表示されたダイアログで適切な名前を入力して **OK** をクリックします。名前は、プリンタおよびアプリケーションがわかるものを選択し、かつ一意である必要があります。プリンタの名前は、すべてのユーザーに同じ名前を割り当てる必要があります。これは、ドキュメントをやり取りしても、受信者が同じ名前を使用していれば、選択したプリンタは変更されないからです。
- 選択したプリンタを削除するには、**削除** をクリックします。標準プリンタ、またはサーバーインストールでシステム管理者が作成したプリンタは、このダイアログでは削除できません。
- **インストールされているプリンタ** リストボックスで選択したプリンタを標準のプリンタとして設定するには、プリンタの名前をダブルクリックするか、**標準** ボタンをクリックします。

ファックス機能の使用

使用するコンピュータに Efax や HylaFax などのファックスパッケージがインストールされている場合、OpenOffice.org ソフトウェアでファックスを送信できます。

1. **新しいプリンタ** をクリックして **プリンタの追加** ダイアログを開きます。
2. **Fax 機の設置** を選択して、**次へ** をクリックします。
3. 標準ドライバを使用するか、その他のプリンタドライバを使用するかを選択します。標準ドライバを使用しない場合は、適切なドライバを選択し、**次へ** をクリックします。
4. 次に表示されるダイアログで、ファックス通信に使用するコマンド行を入力します。ファックス送信側のコマンド行で、「(TMP)」を一時ファイルに、「(PHONE)」を受信側ファックスの電話番号にそれぞれ置換します。「(TMP)」がコマンド行にある場合は、PostScript コードがファイルに転送されます。それ以外の場合は、パイプを介して標準入力として処理されます。**次へ** をクリックします。
5. 新しいファックスプリンタに名前を付け、テキストで特別に選択した電話番号（下記参照）を印刷するかどうかを指定します。指定したら、**完了** をクリックします。

これにより、作成したプリンタにしてファックスを送信できるようになります。ファックス番号をテキストとしてドキュメントに入力します。アクティブなデータベースからファックス番号を読み取るフィールドに入力することもできます。いずれの場合も、ファックス番号には 最初に記号 @#@# を最後に記号 @@ を付ける必要があります。例) @#@#1234567@@

電話番号を含むこれらの文字を印刷しない場合は、**コマンド** タブページの **プロパティ (Properties)** にある **ファックス番号を出力から削除** オプションをアクティブにします。電話番号をドキュメントに入力しないと、番号を入力するかどうかを尋ねるダイアログが出力後に表示されます。

OpenOffice.org では、ファックスを標準のファックスに送信するボタンをアクティブにすることもできます。これを行うには、**ファンクションバー** を右クリックして **表示されているアイコン サブメニュー** を開き、**標準ファックスの送信** ボタンをクリックします。このボタンを押したときに使用されるファックスを、**ツール → オプション → 文書ドキュメント → 印刷** で設定します。

ファックスを送信するたびに個別の印刷ジョブを作成してください。これを行わないと、最初の受信者がすべてのファックスを受信することになります。**ファイル → 差し込み印刷** ダイアログで、**プリンタ** オプションを選択してから、**個別印刷ジョブの作成** チェックボックスをオンにします。

PostScript から PDF へのコンバータの使用

使用するコンピュータに Ghostscript や Adobe Acrobat Distiller などの PDF コンバータに対応する PostScript がインストールされている場合は、OpenOffice.org ソフトウェアで簡単に PDF ドキュメントを作成できます。

1. **新しいプリンタ** をクリックして **プリンタの追加** ダイアログを開きます。
2. **PDF コンバータの接続** を選択して **次へ** をクリックします。

標準ドライバを使用するか、Acrobat Distiller ドライバ、またはその他のドライバを使用するかを選択します。ドライバに「**Generic Printer (T42 対応)**」を選択すると、タイプ 3 のフォントではなくタイプ 42 のフォントが使用されます。このドライバは、ソフトウェアの PostScript インタプリタへの出力に適しています。ドライバを選択したら、**次へ** をクリックします。

3. 次に表示されるダイアログで、PostScript から PDF コンバータを呼び出すためのコマンド行を入力します。また、PDF ファイルの保存先のディレクトリも入力します。ディレクトリを指定しない場合は、ユーザーのホームディレ

クトリが使用されます。コマンド行で、「(TMP)」を一時ファイルに、「(OUTFILE)」をターゲットファイルに置換します。名前はドキュメント名を基に作成されます。「(TMP)」がコマンド行にある場合は、Postscript コードがファイルに転送されます。それ以外の場合は、パイプを介して標準入力として処理されます。Ghostscript または Adobe Acrobat Distiller が検索パスにある場合は、定義済みのコマンド行の中からいずれか 1 つを使用できます。入力したら、**次へ** をクリックします。

4. 新しい PDF コンバータに名前を付け、**完了** をクリックします。

これにより、作成したプリンタに出力して PDF ファイルを作成できるようになります。

フォントのインストール

OpenOffice.org ソフトウェアを使用して作業する場合、使用するドキュメントの種類によってフォントの数が異なることがあります。これは、使用目的に応じて必要と思われるフォントのみが表示されるからです。

- そのため、印刷可能な文書ドキュメントの場合は、用紙への印刷を前提としているため、フォント選択ボックスに表示されるのは印刷可能なフォントのみになります。
- HTML ドキュメントまたはオンラインレイアウトの場合は、画面上で使用可能なフォントのみが表示されます。
- 逆に、図形描画ドキュメントおよび表計算ドキュメントの場合は、印刷も、画面表示も可能なフォントをすべて使用できます。

OpenOffice.org ソフトウェアでは、画面に表示されているフォントが出力されるフォントになります (WYSIWYG)。予想されるエラーが **書式** → **文字** ダイアログの下部に表示されます。

フォントの追加

その他のフォントを OpenOffice.org ソフトウェアに統合することができます。統合したフォントは、OpenOffice.org ソフトウェアでしか使用できませんが、さまざまな X サーバーで使用する場合もフォントをインストールする必要があります。これらのフォントを他のプログラムでも使用できるようにするには、通常の手順に従ってフォントを X サーバーに追加します。OpenOffice.org ソフト

ウェアで表示および印刷できるフォントは、PostScript Type1 フォントと TrueType フォント (TrueType Collections を含む) です。

その他のフォントを OpenOffice.org ソフトウェアに統合するには、以下の手順で行ないます。

1. **spadmin** を開始します。
2. **フォント** をクリックします。
3. OpenOffice.org ソフトウェアに追加されたすべてのフォントの一覧が記載されたダイアログに表示されます。**削除** ボタンを使用して選択したフォントを削除したり、**追加** ボタンを使用して新しいフォントを追加することができます。
4. **追加** をクリックすると、**フォントの追加** ダイアログが表示されます。
5. フォントを追加するディレクトリを入力します。... ボタンを押して、パス選択ダイアログからディレクトリを選択するか、ディレクトリを直接入力します。
6. このディレクトリに格納されているフォントの一覧が表示されます。追加するフォントを選択します。すべてのフォントを追加するには、**すべて選択** をクリックします。
7. **追加時にソフトリンクのみ格納** チェックボックスを使用して、フォントを OpenOffice.org ディレクトリにコピーするか、またはシンボリックリンクのみをディレクトリに作成するかを指定します。常時使用することのないデータ媒体 (CD-ROM など) にフォントを追加する場合は、フォントをコピーする必要があります。
8. **OK** をクリックします。これで、フォントが追加されます。

サーバーインストールの場合、可能であれば、サーバーインストールの際にフォントがインストールされます。ユーザーに書き込み権限がない場合、フォントは対応するワークステーションインストールの際にインストールされるため、アクセスできるのは、フォントをインストールしたユーザーのみになります。

フォントの削除

フォントを削除するには、次の手順に従います。

1. **spadmin** を開始します。
2. **フォント** をクリックします。

3. OpenOffice.org ソフトウェアに追加されたすべてのフォントの一覧を記載したダイアログが表示されます。削除するフォントを選択して **削除** をクリックします。

削除できるのは、OpenOffice.org ソフトウェアに追加されたフォントのみです。

フォントの名前変更

OpenOffice.org ソフトウェアに追加したフォントの名前を変更することもできます。これは、複数のローカライズされた名前を持つフォントを使用する場合に非常に便利です。

1. spadmin を開始します。
2. **フォント** をクリックします。
3. 名前を変更するフォントを選択して **名前の変更** をクリックします。
4. 表示されるダイアログで、新しい名前を入力します。フォントに複数の名前が付けられている場合は、新しい名前を入力するコンボボックスにそれらの名前が候補として表示されます。
5. **OK** をクリックします。

名前の変更に複数のフォントを選択した場合は、選択したフォントごとにそれぞれのダイアログが表示されます。

TrueType Collection (TTC) を選択した場合は、TTC に含まれるフォントごとにそれぞれのダイアログが表示されます。

Solaris(tm) オペレーティング環境でのパッチのインストール

Solaris オペレーティング環境下で OpenOffice.org をインストールする前に、「システム要件」章の 8 ページに説明されているシステムパッチをインストールする必要があります。

Solaris システムパッチをインストールするには、以下に示すパッチ番号 #106327-08 の例で説明する手順に従います。この例にあるパッチは、zip 形式で圧縮され、<http://sunsolve.sun.com> からダウンロードしたものです。

1. ルートのアクセス権限を次のように指定してログインします。

```
su -
```

2. 圧縮されたパッチファイルを抽出するために一時ディレクトリを作成します。
例) /tmp/patches

```
mkdir /tmp/patches
```

3. 圧縮されたパッチファイルをこのディレクトリにコピーしてそこで抽出します。

```
unzip 106327-08.zip
```

4. patchadd コマンドを使ってパッチをインストールします。

```
patchadd 106327-08
```

5. パッチのインストールが正常に完了したら、一時ディレクトリを削除します。

```
rm -rf /tmp/patches
```

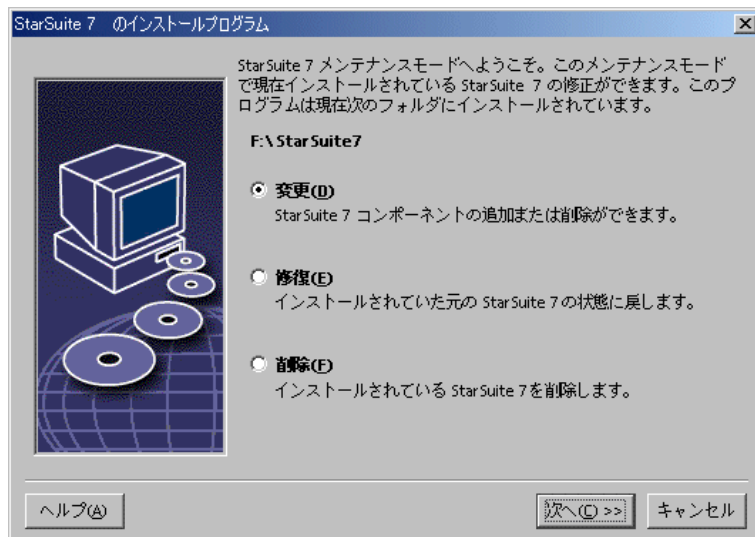


すでにシステムにインストールされているパッチの一覧を表示するには、コマンド `showrev -p` または `patchadd -p` を使用します。インストールされているパッチを削除するには、コマンド `patchrm` を使用します。

既存の OpenOffice.org インストールファイルの変更

既存の OpenOffice.org インストールファイルを変更、修復、または削除するには、ローカルディレクトリにあるセットアップアプリケーションを実行します。

必要に応じて、インストール CD にあるセットアップアプリケーションを実行することもできます。



変更

変更 オプションを選択すると、既存のインストールファイルへのコンポーネントの追加、または既存のインストールファイルからのコンポーネントの削除を行ったり、ファイルの種類割り当てを変更したりできます。コンポーネントの選択に関する詳細については、「コンポーネントの選択」章の 22 ページを参照してください。

修復

修復 オプションを選択すると、システムのレジストリエントリが復元されて、削除されたプログラムファイルが再インストールされるため、損傷したインストールファイルを修復できます。

削除

削除 オプションを選択すると、OpenOffice.org のシステムのレジストリエントリが削除され、すべての OpenOffice.org のプログラムファイルが削除されます。ユーザーが作成または変更したファイルは削除され **ません**。



必要に応じて、OpenOffice.org のインストールディレクトリからすべての設定ファイルおよびユーザーファイルを削除することもできます。

Windows 環境下では、削除するためにシステムの再起動が必要なファイルもあります。

ネットワークでサーバーインストールを削除するには、サーバー上の OpenOffice.org フォルダを削除します。この操作を行うと、削除したサーバーインストールを基にしたすべてのワークステーションインストールが機能しなくなります。

インストールパラメータ

次のパラメータをセットアッププログラムに渡すことにより、特定の操作が実行されます。

- サーバーインストールを開始するには、`setup -net` または `-n` を使用します。
- パスで指定したディレクトリに OpenOffice.org をインストールするには、`setup -D:destination_path` を使用します。
- インストール直後に指定のアプリケーションを実行するには、`setup -F:application_name` を使用します。

パラメータを指定して OpenOffice.org ソフトウェアを起動

コマンド行から OpenOffice.org ソフトウェアを起動することにより、各種のパラメータを割り当てることができます。これらのパラメータは、パフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。コマンド行パラメータは、操作に慣れている方のみがお使いになることをおすすめします。



標準操作の場合、コマンド行パラメータを使用する必要はありません。パラメータの中には、OpenOffice.org ソフトウェアテクノロジーの技術的なバックグラウンドについて、十分な知識を必要とするものがあります。

このトピックの詳細については、www.openoffice.org を参照してください。

コマンド行から OpenOffice.org ソフトウェアを起動

1. Windows 環境下では、Windows のスタートメニューから **ファイル名を指定して実行** を選択するか、または UNIX® ベースのプラットフォームで Shell を開きます。
2. Windows を使用する場合は、**名前** テキストフィールドに次のテキストを入力して OK をクリックします。
3. UNIX ベースのシステムを使用する場合は、次のテキスト行を入力してから return キーを押します。

```
{install}\program\soffice.exe {parameter}
```

{install} の部分を OpenOffice.org ソフトウェアのインストールファイルのパスに置換します。例) C:\Program Files\Office または ~/office

必要に応じて、{parameter} の部分を以下に示す 1 つまたは複数のコマンド行パラメータに置換します。

有効なコマンド行パラメータ

パラメータ	意味
-help / -h / -?	使用可能なコマンド行パラメータが ダイアログボックスに一覧表示されます。-help は長いヘルプテキストを、-h は短いヘルプテキストを表します。
-writer	空白の文書ドキュメントを開きます。
-calc	空白の表計算ドキュメントを開きます。
-draw	空白の図形描画ドキュメントを開きます。
-impress	空白のプレゼンテーションドキュメントを開きます。
-math	空白の数式ドキュメントを開きます。
-global	空白のマスタードキュメントを開きます。
-web	空白の HTML 形式ドキュメントを開きます。
-minimized	最小化します。スプラッシュ画面は表示されません。
-invisible	非表示モードで開始します。 スタートアップロゴも、プログラムの初期画面も表示されません。ただし、 API を介して OpenOffice.org ソフトウェアを制御したり、ドキュメントおよびダイアログを開くことはできます。 このパラメータを指定して OpenOffice.org ソフトウェアを起動した場合は、タスクマネージャ (Windows) または kill コマンド (UNIX ベースのシステム) を使用しない限り終了できません。 このパラメータを -quickstart と一緒に使用することはできません。 詳細については、 OpenOffice.org デベロッパ向けガイド を参照してください。
-norestore	システムエラー発生後の再起動およびファイルの復元を使用不可にします。
-quickstart	クイック起動を起動します。スプラッシュ画面は表示されません。

パラメータ	意味
-terminate_after_init	複数の UNO サービスを登録して終了します。スプラッシュ画面は表示されません。 詳細については、 OpenOffice.org デベロッパ向けガイド を参照してください。
-accept={UNO string}	「UNO Acceptor Threads」の作成に「UNO Accept String」を使用することを OpenOffice.org ソフトウェアに通知します。 詳細については、 OpenOffice.org デベロッパ向けガイド を参照してください。
-userid={user id}	soffice.ini ファイル、bootstrap.ini ファイル、および sversion.ini ファイルのデータの代わりに使用するユーザーのディレクトリを指定します。 詳細については、 OpenOffice.org デベロッパ向けガイド を参照してください。
-p {filename1} {filename2} ...	ファイル {filename1} {filename2} ... を標準プリンタに印刷して終了します。スプラッシュ画面は表示されません。 ファイル名にスペースが含まれる場合は、二重引用符で囲む必要があります。例) "C:\My File.sxw"
-pt {Printername} {filename1} {filename2} ...	ファイル {filename1} {filename2} ... をプリンタ {Printername} に印刷して終了します。スプラッシュ画面は表示されません。 ファイル名にスペースが含まれる場合は、二重引用符で囲む必要があります。例) "C:\My File.sxw"
-o {filename}	{filename} を開いて編集できるようにします。テンプレートの場合も同様です。
-view {filename}	{filename} の一時コピーを作成し、コピーしたファイルを読み取り専用で開きます。
-n {filename}	{filename} をテンプレートとして使用する、新しいドキュメントを作成します。
-nologo	プログラムの起動時にスプラッシュ画面を非表示にします。

パラメータ	意味
-display {display}	UNIX ベースのプラットフォームでの DISPLAY 環境変数を値 {display} に設定します。このパラメータをサポートするのは、UNIX ベースのプラットフォームで稼動する OpenOffice.org ソフトウェアの起動スクリプトのみです。
-headless	ユーザーインターフェースなしでアプリケーションを使用できる「ヘッドレスモード」で起動します。 この特別なモードは、 API を介して外部クライアントからアプリケーションを制御する場合に使用します。

OpenOffice.org の登録

次回 OpenOffice.org を起動すると、登録ダイアログを表示します。また、任意の OpenOffice.org アプリケーションの [ヘルプ](#) → [登録](#) でもこのダイアログが表示されます。

登録ダイアログは、ディレクトリ {installpath}/share/config/registry/instance/org/openoffice/Office/ にある common.xml ファイルを編集することによって変更できます。登録ダイアログを永続的に非表示にするには、Registration で RequestDialog の値を 0 に設定します。登録メニューコマンドを永続的に非アクティブにするには、Registration で ShowMenuItem を false に設定します。以下のようになります。

```
<Registration>
<RequestDialog cfg:type="int">0</RequestDialog>
<ShowMenuItem cfg:type="boolean">>false</ShowMenuItem>
</Registration>
```

OpenOffice.org ソフトウェアの拡張

OpenOffice.org ソフトウェアは、OpenOffice.org ソフトウェア開発キット (SDK) のツールを使用して拡張することができます。通常、このツールを使用して拡張できる機能には、共有ライブラリ、Java クラスファイル、OpenOffice.org Basic スクリプト、新しいインターフェースタイプの説明などがあります。



OpenOffice.org ソフトウェアの拡張機能の作成に関する詳細については、OpenOffice.org [デベロッパ向けガイド](#) を参照してください。

特殊なパッケージマネージャ `pkgchk` は、OpenOffice.org のセットアップアプリケーションによってインストールされ、登録されます。このマネージャは、ディレクトリ `{office_install}/program` にあります。このパッケージマネージャを使用するための構文は次のとおりです。

```
pkgchk <switches> [package1 package2 ...]
```

切り替えが実行されます。

<code>-s</code> または <code>--shared</code>	共有コンポーネントがチェックまたはインストールされます。
<code>-r</code> または <code>--renewal</code>	すべてのパッケージが再インストールされます (キャッシュエラーの場合)。
<code>-v</code> または <code>--verbose</code>	インストール時に冗長な出力が印刷されます。
<code>-l <file></code> または <code>--log <file></code>	カスタムログ <code><file></code> へ書き込みが行われます。
<code>--strict_error</code>	エラーが発生した場合に直ちにパッケージインストールが終了します。
<code>--supersede_basic_libs</code>	同じ名前が付いた既存の基本ライブラリが上書きされます。
<code>-h</code> または <code>--help</code>	簡単なヘルプテキストが印刷されます。

パラメータを 1 つも指定せずに `pkgchk` を実行すると、以下に示す変更の有無を調べるために、ディレクトリ `{office_install}/user/uno_packages` のみがスキャンされます。

- 新しい拡張パッケージが検出された場合は、現在使用中のユーザーに拡張機能がインストールされます。

- インストールされた拡張機能の拡張パッケージファイルが見つからない場合は、対応する拡張機能の登録が削除されます。
- インストールされた拡張機能の拡張パッケージファイルが元の拡張パッケージと異なる場合は、対応する拡張機能が更新されます。

パッケージファイル名およびパスをパラメータとして指定し、`pkgchk` を起動した場合は、対応するパッケージファイルがディレクトリ `{office_install}/user/uno_packages` にコピーされ、インストールされます。

`-shared` または `-s` とパッケージファイル名およびパスをパラメータとして指定し、`pkgchk` を起動した場合は、対応するパッケージファイルがネットワークインストールを共有するすべてのユーザーのディレクトリ `{office_net_install}/share/uno_packages` にコピーされ、インストールされます。

シングルユーザー用の拡張機能のインストール、更新、および削除

1. OpenOffice.org ウィンドウをすべて閉じます。

クイック起動をはじめとする OpenOffice.org アプリケーションをすべて終了させます。

2. 次の中からいずれか 1 つを実行します。

- 拡張パッケージを **インストール** するには、対象のパッケージを `{office_install}/user/uno_packages` にコピーします。
- 拡張パッケージを **更新** するには、更新されたパッケージを `{office_install}/user/uno_packages` にコピーします。既存のパッケージが確実に上書きされたことを確認してください。
- 拡張パッケージを **削除** するには、ディレクトリ `{office_install}/user/uno_packages` から対象のパッケージを削除します。

3. ディレクトリ `{office_install}/program` で `pkgchk` を実行します。

パッケージマネージャーツールによって、拡張パッケージがあるかどうかディレクトリ `{office_install}/user/uno_packages` がスキャンされ、インストールまたはインストールの削除に必要なすべてのステップが実行されます。パッケージのインストール後に、ディレクトリからパッケージファイルを削除しないでください。パッケージマネージャーツールによって実行されたすべてのアク

シヨンの一覧は、`{office_install}/user/uno_packages/cache/log.txt` で確認できます。

マルチユーザー用の拡張機能のインストール、更新、および削除

1. OpenOffice.org ウィンドウをすべて閉じます。

ローカルおよび対象のサーバー上で、クイック起動をはじめとする OpenOffice.org アプリケーションをすべて終了させます。

2. 次の中からいずれか 1 つを実行します (`{office_net_install}/share` は、サーバーインストールの共有ディレクトリであるとして)。

- 拡張パッケージを **インストール** するには、対象のパッケージをディレクトリ `{office_net_install}/share/uno_packages` にコピーします。
- 拡張パッケージを **更新** するには、更新されたパッケージをディレクトリ `{office_net_install}/share/uno_packages` にコピーします。
- 拡張パッケージを **削除** するには、対象のパッケージをディレクトリ `{office_net_install}/share/uno_packages` から削除します。

3. ディレクトリ `{office_net_install}/program` で `pkgchk -shared` を実行します。

パッケージマネージャーによって、拡張パッケージがあるかどうかディレクトリ `{office_install}/user/uno_packages` がスキャンされ、インストールまたはインストールの削除に必要なすべてのステップが実行されます。パッケージのインストール後に、ディレクトリからパッケージファイルを削除 **しない** てください。パッケージマネージャーによって実行されたすべてのアクションの一覧は、`{office_install}/user/uno_packages/cache/log.txt` で確認できます。